

小谷コレクション蔵 『修験指南鈔』 紹介と翻刻

王 傑 (蘇州大学卒)
中 畑 ひかり (信州大学卒)

【はじめに】

本稿は、小谷コレクション所蔵の『修験指南鈔』の紹介と翻刻である。本書は修験道の教義書であり、十四の章段で構成されている。修験道の祖とされる役行者の出生にまつわる話から始まり、熊野から金峯山に至る大峯奥駈道の霊場の伝承を記した後、峯中灌頂の奥義について明かされる。編者については、天台宗本山派に関わる人物によって記された可能性が高い。

【一、書誌】

版本一冊。元禄六年(一六九三)刊。編者は未詳。印校者は鎮栄。書肆は中野六右衛門。縦二六、一cm×横一八、九cm、袋綴。外題は剥落しており、表紙左上に「修験指南鈔 全」と墨書される。内題・尾題は「修験指南鈔」、柱題は「修験指南」。二十丁、一面九行、一行十八字で、漢字・梵字で表記される。刊記「元禄六癸酉曆六月吉祥日 洛陽三條通書肆 中野六右衛門 板行」。表紙中央に「神原家之宝」と墨書され、その下に「神州平民公郷裔神官神原文太郎」の朱印有り。一丁表裏、二丁表、八丁裏、十七丁表、最終丁裏にも同

様の朱印有り。

文末に「為修験中洛東沙門大先達千勝院法印鎮栄、以正本令改板之者也」とあり、正本と校合し、改版したものであることが記されるため、本書の成立は刊行された元禄六年を遡ると考えられる。

本書の編者については、本山派の拠点である熊野に関する章段が多いことや、天台宗に関わる内容が多いことから、天台宗本山派に関わる人物によって記されたと考えられる。鎮栄に関しては、洛東の僧で千勝院の先達とあるが、それ以上の事蹟に関しては未詳である。千勝院に関しても未詳であるが、本山派の本山である聖護院の塔頭の一つである可能性が高い。

【二、構成】

本書の構成は第一章に役行者の出生譚、第二章から第九章までが熊野、第十章が大峯、第十二、十三章が金峯山、第十四章が峯中灌頂に関する内容となっている。

本書を構成する十四の章段の内、役行者伝承を記す第一章と、灌頂の儀式について記す第十四章を除いた十二の章段が、大峯奥駈道を構成する各霊場に関わる伝承となっている。更に十二の章段の内

訳を見ると、第二章から第九章までが熊野に関わる伝承で、第十章が大峯に関わる伝承、第十二、十三章が金峯山に関わる伝承となっている。以下は各章段数と章段名である。²⁾

- 第一 役優婆塞於印度生因位事「并行者出生之事」
- 第二 熊野権現因位之事
- 第三 結早玉両所各各夫婦之事
- 第四 熊野三所垂跡各不一途事
- 第五 御社壇殿作之事
- 第六 両所御殿除中間事
- 第七 熊野称号之事
- 第八 十二所権現御本地ノ之事
- 第九 本宮御在所之事
- 第十 大峯八大金剛童子本迹名体事
- 第十一 行者五大次第之事
- 第十二 蔵王権現本地垂迹之事
- 第十三 自下山至山上入堂次第事
- 第十四 第十四峯中灌頂私記

熊野に関する章段が八章段に及ぶ一方、大峯や金峯山に関わる章段は三つにとどまることから、本書は熊野という地に重点を置いていることが指摘できる。また話の順は熊野、大峯、金峯山というように、熊野と吉野を結ぶ大峯奥駈道を北上する配列になっている。また、各章段内に記される摩(修行場)や名所に関しても、大峯奥駈道を北上する順に記されている。修験道は江戸時代に、醍醐寺の三宝院を中心とし、拠点を金峯山とする真言宗当山派と、聖護院を中心とし、拠点を熊野におく天台宗本山派の二つの宗派に大きく分か

れた。当山派は金峯山から熊野まで至る逆峯と呼ばれるルートで修行を行うのに対し、本山派は熊野から金峯山に至る順峯と呼ばれるルートで修行を行う。本書は、本山派の拠点である熊野に重点が置かれている点や、各章で語られる霊地が熊野から金峯山へ至る順に配列されていることから、本山派系の教義書であると考えられる。

更に、実際の修行の行程に従って話が構成されていることに関わって、第十四章では修行者をいさめる記述が見られる。第十四章の実践を意識した記述を以下に二箇所挙げる。

第十四章(二十四丁表)

役優婆塞常二曰、我ハ不愛身命ヲ、從來捨身、求菩提之苦行、何ソ有ンヤ所痛哉。併末世ノ行人下根ノ故ニ、於テ巖石ニ亡命ヲ輩ラ繁多ニシテ、而モ近來異方便ヲ廻、為メレ扶非器ノ新客ヲ、加ヘ宥免ヲ、令去嶮難ヲ歟。先達一同之上ハ、不能ハ是非ニ。尤モ可キレ守ル本式ヲ者也。

苦行の由来を役行者に求め、その上で近年修行により命を失う者が多いことを嘆く。そのため、先達は修行者の力量に応じ、修行内容の変更を行うことがあるが、役行者に由来する厳しい修行のあり方を守るべきであるとする。当時の修行の実態を述べた上で、修行のあり方を説いており、修行の実践を意識した記述と言える。

第十四章(二十三丁表裏)

今非器ノ同行等、動不ル全法式ヲ族有ト之云云。冥顯可シ恐ル云云。木食草衣ハ、仏弟子ノ通誠也。釈迦如来難行之昔、食シ玉ヒテ烏麦手一合ヲ、六年苦行シ給フ。今マ此ノ先蹤也。同行

殊ニ致シ精進ヲ、全式相ヲ、速可シ至ル成仏ノ果ニ。

力量のない同行は、全く修行の決まりを守らないが、その決まりは聖人たちの苦行に由来するものであり、同行はそれを守ることにより、成仏できるという旨が記されている。同行というのは、先達にあんされ修行をする者達のことである。このように同行に対し、修行に関する注意を喚起していることや、先述した通り、実際の修行の行程に従って話が配列されていることから、実践を強く意識した内容となっていると言える。

【三、内容（一）取りあげる僧侶達から】

次に本書の内容から特徴的なものを二つに分けて紹介する。まず、本書において取り上げられている僧侶達からも、本山派系の教義書としての特徴を見出すことが出来る。

第八章では、熊野十二所権現と、関係する七所の権現の本地と各権現を感得した僧、第十章では大峯の八大童子の本地とそれぞれを感得した僧が記される。第九章末では、本山派にとって重要である増誓に関する記述が見られる。

まず、第八章で挙げられている僧について考察を行う。以下は記される僧の名とその僧侶の宗派、括弧内には感得した本地数を記す。宗派が不明な場合は、その人物に関わる情報を簡単に記した。

〈第八章十二所権現本地事〉

- ・（三） 婆羅門僧正 天竺の僧
- ・（六） 智証大師 天台宗

- ・（二） 伝教大師 天台宗
- ・（二） 静観 天台宗

- ・（二） 慈覚大師 天台宗
- ・（二） 源信 天台宗

- ・（二） 千観内供 天台宗
- ・（二） 弘法大師 真言宗
- ・（二） 裸形上人 熊野青岸渡寺の開基とされる。

第八章では熊野に関わる十九所の権現それぞれに感得した僧が割り当てられており、九人の僧が登場する。天台宗の僧六人が十二所、真言宗の僧一人が一所、インドの僧を指す婆羅門僧正は三所の権現を感得している。人物の割合で考えると、登場する九人の僧の内、六人が天台宗の僧となっている。天台宗の僧が多くを占め、他宗派では真言宗の空海が一回登場するのみである。このことから、本書が天台宗系の人物によって記された可能性が高いと考えられる。また智証大師（円珍）は六所の権現を感得しており、最も多い登場回数となっている。

本山派の拠点である聖護院は、かつて園城寺を本山とする天台宗寺門派に属し、智証大師はその寺門派の宗祖とされる。天台宗の僧の中でも、特に智証大師の名が多く挙げられるのは、寺門派と関わりを持つ本山派の教義書であるためだと考えられる。

次に第十章で挙げられる僧に注目する。第八章と同様に、大峯八大剛童子を感得した僧の名、その僧の宗派と、宗派が不明な場合はその人物に関わる情報を簡単に記した。一人の僧が重複して登場

する場合は括弧内にその回数を記した。

〈第十章大峯八大金剛童子本迹名体事〉

- ・(一) 弘法大師 真言宗
- ・(一) 真濟僧正 真言宗
- ・(一) 聖宝 真言宗
- ・(一) 智証大師 天台宗
- ・(一) 良弁 華嚴宗
- ・(一) 勤操僧正 三論宗 ※空海や最澄から灌頂を受ける。比叡山落慶供養において堂達を務める。
- ・(二) 禅洞 熊野権現を最初に祀った人物に連れられ、熊野に参詣し、熊野権現について人々に広めた。

↓七人の内、真言宗が三人、天台宗、華嚴宗、三論宗は一人ずつとなっている。禅洞は熊野に関わる伝承の中にのみ名前が見られ、宗派は不明であるが二つの権現を感じている。第十章では天台宗の僧は一人のみで、真言宗の僧が三人となり、第八章と比べて真言宗の割合が比較的高いと言える。これは大峯が、金剛峯寺を中心とする真言宗当山派が支配する地であるためであると考えられる。

次に第九章末の増誉という僧に関わる記述を考える。以下は該当部分の本文である。

○熊野三山檢校職始白河院御臨幸御先達依彼賞増誉前大僧正時被始置此職云云。白河熊野御勸請為御願寺供養賞故被始補云

云。「三井長史 護持 牛車 座主 四天王寺別当 延曆寺座

主 三山檢校 法務大僧正「号一乗寺」聖護院」

増誉が熊野の初代檢校となった由来について記される。かぎ括弧で示した割書には、天台座主や園城寺長吏などの増誉が務めた職が列挙され、また聖護院の開基であることが記される。増誉は本山派の中心である聖護院の開基であり、本拠地熊野の初代檢校を務め、更に先述した寺門派の総本山である園城寺の長吏などを務めた。また天台宗のトップである座主を務め、本山派にとって非常に重要な人物であると言える。このように、増誉に関して詳細に取り上げていることから、本書が本山派に関わる人物により記されたものであると考えられる。

第十章では天台宗の僧の人数を真言宗が上回る。しかし、本山派の本拠地熊野に関わる記述が圧倒的に多いこと、八章において寺門派の宗智証大師が多く権現を感じていること、第九章にて本山派の開祖、増誉に関して特筆していること、熊野から吉野に至る順で記されることなどから、やはり本書は本山派の教義書であると考えられる。

【四、内容(二)天台本覚思想との関わり】

本書が本山派の教義書である可能性は、本書の記述に見られる思想からも指摘できる。最終章の第十四章「峯中灌頂私記」では、修験の修行を終えた者に対して山中で行う灌頂の儀式の次第が記される。実際に灌頂を受ける修行者に対して説いたと考えられる文言も見られ、そこから本書がどのような思想を背景に持つのか考えることができる。本書の思想が読み取れる記述を以下に挙げる。

深山者、八葉中台也。已入曼荼羅中院、証即身成仏覚位。故深山碑文云、不論迷悟者、入於遍知院、不斷煩惱者、超菩薩十地。凡聖一如法理親在吾道之秘訣、誠為希有中希有也。(二十五丁表)

ここでは、同行に深山(大峯)は仏の世界そのものであり、そこで成仏するとはどのようなことであるのかを説いている。「深山(大峯)は曼荼羅の世界で、そこで即身成仏をすることができる」と説いた上で、即身成仏とは迷妄や煩惱を捨てずに成仏できることであるとする。凡人も聖人も同一とする理は、修験の教えの秘訣である。という旨が述べられている。この記述に見られる即身成仏、煩惱即菩提、凡聖一如といった思想は、人は本来仏となる素養を持つという思想を発展させたもので、天台本覚思想においては頻繁に説かれる。天台本覚思想では、人は本来仏となる素養を備えているとする思想が見られる。例えば、『天台法華宗牛頭法門要纂』³⁾では、「此心性本源凡聖一如無二如、此名本覚如来」という記述が見られ、人が持っている心は、本来聖人も凡人も同じであり、このことを「本覚如来」と名付けるとしている。また、「以心性本覚為無作実仏」とも記され、人の心は本来、悟りを備えているため、ありのままの心が仏そのものであるとする。そこから、凡人も聖人も同様の心を備えているとする凡聖不二や、煩惱が菩提に繋がるとする煩惱即菩提、体を伴ったまま成仏する即身成仏という思想が天台本覚思想においても盛んに説かれる。

凡聖一如については、前述した『天台法華宗牛頭法門要纂』の記述に、「凡聖一如無二如」と記されている。煩惱即菩提の教えは『修

禪寺決』において、「煩惱自性全菩提一体不二」と記され、煩惱と菩提は一体のものであるとする煩惱即菩提の思想が見られる。このように天台本覚思想において重視される煩惱即菩提や凡聖一如の教えを、本書では「吾道」の教えの秘訣であるとしている。

本書で説かれる内容は、これまで述べてきたように天台宗特有の教義の影響が見られ、この教えを吾道の秘訣としている。このことから、本書は天台宗に関わる宗派の教義書であると考えられる。

注

- (1) 柱に記される丁数は実際の丁数と一致せず、最終丁には二十五丁と表記されている。落丁箇所は無し。
- (2) 目次に記される章段名と、各章段の前に記される章段名に若干の差異がある。本稿では各章段の前に記されている章段名を用いた。
- (3) 第七、煩惱菩提の章。『天台法華宗牛頭法門要纂』は最澄に仮託した教義書で、実際の著者は未詳。成立年代は跋文に見られる寿永元年(一一八二)以前と考えられている。
- (4) 第十、即身成仏の章。
- (5) 第三帖「大教縁起口伝」。『修禪寺決』は天台宗の一学派で、源信を祖とする恵心流の教義書。著者は未詳。奥書の書写年から、成立年代は文明十二年(一一四〇)以前とされる。

【参考文献】

- ・ 日本思想大系『天台本覚論』（岩波書店）
- ・ 宮家準著『修験道思想の研究』（春秋社）

【翻刻】 修験指南鈔

凡例

- 一、文字は現行の字体に直した。
- 一、原文に句読点はないが、著者の判断で適宜句読点を付した。
- 一、仮名遣いは原文通りとした。
- 一、改行部は／で示す。ただし、目録、本文中の小題は原文通り一行書きとした。
- 一、割書部は「」によって示した。
- 一、判読不明の箇所は■で記した。

修験指南鈔目録

- 第一 役行者於印度取所事「并」行者出生事
- 第二 熊野権現因位之事
- 第三 結早玉兩所各夫婦之事
- 第四 熊野三所垂跡各不一途事
- 第五 御社壇殿作之事

- 第六 兩所御殿除中間之事
- 第七 熊野稱号之事「一才」
- 第八 十二所権現御本地之事
- 第九 本宮御在所縁起之事
- 第十 八大金剛童子本迹之事
- 第十一 行者五大次第之事
- 第十二 藏王権現本地垂迹之事
- 第十三 自下山至山上入堂次第之事
- 第十四 峯中灌頂私記「一ウ」

修験指南鈔

第一 役、優婆塞於印度生、因位、事「并」行者出生事、
過去伽葉、也。次、現、摩訶伽葉、次、現、毘經大士、次、生、
頭、長者。慈悲大頭王、臣下也。焉、大頭王、問、雅頭長者、曰、
汝、仏法、力、敷、神、之功、敷、等、同、三、所、権、現、頭、答、云、
我、土、砂、國、住、持、之、間、有、智、衆、生、何、等、過、無、智、衆、生、
施、
飲、食、衣、服、然、而、得、長、命、權、現、教、長、者、曰、有、智、者、
道、近、為、無、智、衆、生、踏、積、迎、大、師、遺、教、之、跡、摘、菜、汲、水、
樵、薪、修、禪、定、為、成、
二、才、
一、才、
仏、直、道、依、大、頭、王、教、勅、雅、頭、
長、者、入、鶴、峯、
ワ、シ、ノ、ミ、ネ、
左、傍、檀、特、之、兩、山、焉、長、者、啓、權、
現、此、土、衆、生、如、此、將、導、
二、佗、
國、衆、生、權、現、答、曰、利、
益、広、納、受、之、長、者、曰、雖、知、
此、國、彼、州、不、知、
佗、國、
權、
現、答、曰、不、能、
今、案、却、
后、
經、
二、七、日、
可、來、者、
修、善、之、
靈、地、尋、之、
十六、大、國、之、
内、十、千、小、國、
凡、無、之、
粟、散、
國、
内、
大、日、本、
國、
六、十、
六、分、
内、
紀、州、
無、漏、
郡、
備、
崎、
示、置、
和、州、
吉、野、
郡、
涌、
出、
嶽、
示、置、
矣、
而、
慈、
悲、
大、
頭、
王、
和、
國、
降、
臨、
之、
時、
彼、
長、
者、

随来、对ニ皇太神宮ニ之時、神明悉ク自ニ殿内ニ下リ（二ウ）向フ地ニ、雅頭長者言。我ニ是權現藏王ノ使者ナリ也。委述ニ權現藏王ノ本因縁ヲ、為レ護。王法及一切衆生ニ示来シ此ノ土ニ賜ニ住。紀州無漏ノ郡和州吉野ノ郡、靈地ニ云云。天ノ照太神ノ曰、我ニ是慈悲大頭王五代ノ祖也。率濁大ノ王七代ノ祖也。於我免ニ与。彼靈地ニ但心奏。秋津島ノ民人頭神武天皇也云云。因レ茲長者詣ニ对ニ皇帝ニ、而ノ奏。彼靈地ノ如上ノ蒙ニ免与ニ奉レ勸ニ請ニ權現十二所於ノ無漏ノ郡。入ニ大峯ノ出ニ吉野ノ郡、奉勸ニ請藏王三所。彼ノ長者称ニ勸請十五所、加ニ列ニ權現殿内ニ。今ノ雅頭是ナリ（三才）也。其後經ニ千二百余歳ノ間、七生現シテ行者ノ身ニ所經行ニ大ノ峯也。第七生ノ之身役優婆塞也。具如レ載ニ縁起文也。

役ノ行者出生ノ之事ノ
 神武天皇經ニ千二百八年ニ繼体天皇ノ御時、雅頭ノ長者出ニ来大和国葛上郡茅原郷ニ。繼体天皇ノ后ノ産胎之音聞ニ高賀茂女ノ耳ニ。夢ノ金杵「キネ」(左傍)日ノ光ノ連ノ口中ニ入レ見。則レ産胎ノ之音聞ニ皇后ノ御耳ニ同日同時ニ誕生。[戊ノ午]臍ノ放ニ金色ノ光三筋。皇后誕生ノ王子欽明天皇也。高賀ノ茂ノ所生ニ是優婆塞也。名ニ金杵九。前身者雅頭長者。 (二ウ)

【第二】熊野權現因位之事ノ

如ニ縁起ニ証誠大菩薩ノ者淨飯大王五代ノ孫子中天ノ摩竭提国慈悲大頭王也。然レ於ニ印度ニ施ニ皇德ノ之日、以ニ雅頭長者ノ之息女慈悲母女ヲ為ニ后妃ニ生ニ男女兩ノ子。結早玉ノ兩所是也。和国降臨ノ之時、雅頭長者ノ随来ニ定ニ鎮座ニ依ニ勸請ニ察ニ本縁ヲ、並ニ宮柱ヲ、於ニ權現ノ之陽ノ台ニ、内ニ高ニ五眼ノ之照

マ、邪正不謬ノ之証明。外ニ心念ノ之ノ声ノ導ニ至心信樂ノ之誠諦ヲ。是名ニ家津命ト、又雖レ名ト地主ノ權現ト任ニ本誓ノ行状ニ、奉ツル号ニ証誠菩薩云云。(四才)次ニ若宮ノ女一王子禪師聖等ノ之三所者結尊ノ御子ノ也。兒小守等ノ之二所者早玉尊ノ御子。已上五体王ノ子如レ此、四所明神者眷屬ノ矣。

【第三】結早玉兩所各各夫婦ノ之事ノ

如ニ縁起ノ者結尊ノ甘露梵王ノ后也。早玉尊ノ后ノ長寬長ノ者娘也。○慈悲大頭王ノ御母誰人ノ哉。答云四角ノ王ノ第二ノ姫宮也。○証誠殿自ニ中天ノ降臨ノ之段世無シレ隱。其ノ外奉レ始メ結早玉。兩所和国ノ靈神ノ垂迹有ニ于熊ノ野云云。雖レ然レ今ノ者皆以自ニ中天ノ影向ノ御哉。然レハ一事(四ウ)兩様如何ナル次第ノ哉。凡ソ和光同塵ハ利生方便ノ之計ノ無尽ナリ也。争以凡慮ノ可レ決哉。夫三所ノ權現者「証誠大ノ菩薩結」ノ「早玉ノ尊」也。内ニ秘ニ三身成道ノ之功德、外ニ顯ニ三所靈體ノ之奇瑞ヲ。先兩所權現者「結尊ノ早玉ノ尊」雖レ示ニ千手藥師本地ニ、尋ノ実考ノ源ト、本朝開闢ノ之宗廟伊弉諾伊弉冉ノ尊兩神、ノ金胎兩部ノ之大日薩埵遍照ノ之垂迹也。而ニ条ノ院ノ御宇長寬元年卯月、被レ尋ニ諸家ニ伊勢太神宮熊野ノ權現為ニ同体ノ事被レ召勘文ニ時、刑部卿藤原範兼ノ勘文ニハ者載ニ日本紀ノ文并ニ延喜式ノ二文「神武式ノ神名式」云。今(五才)案ニ此等伊弉諾伊弉冉ノ尊ノ者天照太神ノ父母也。坐ニ伊勢ノ亦熊野ノ坐時ハ、其名雖レ異、其ノ神相同也云云。東号ノ早玉ノ命。本地ノ頭ノ藥師。西称ニ結ノ命。本地頭ノ千手。此レ是理智ニ尊ノ象ニ化行於陰陽男女ノ二神ニ、並ニ鎮座ノ東西。早玉結之和名雖レ異、伊弉諾伊弉冉ノ尊号梵ノ漢不ニ唐

和差別シヤベツ。意在コトアル之レ而已ミ。○次ニ五体王子ハ者ハ伊弉諾伊弉冉ノ御子ナリ也。然レ奉レ加ヘ一ハ女ニ三男ニ火神ヲ等ヲ也云云。○次ニ四所明神ト者ハ眷屬ノ神ナリ也。此ハ内勸クワン請シヤウ十ノ五所ハ者ハ雅頭ノ長者ナリ也。〔五ウ〕

〔第四〕熊野三所垂跡各不一途事

夫レ本宮ノ垂跡ハ如キ縁起ノ者ハ神武天皇ノ御宇大峯ノ入口ノ楠ニ証誠大菩薩ノ於ニ月輪ニ頭ニ僧形ニ。西ノ御前ハ於ニ日輪ニ頭ニ女体ヲ中ノ御前ハ於ニ月輪ニ頭ニ俗形ニ。有ニ三枚鏡ニ其ノ後ニ經ニ百七十歳ニ孝安天皇ノ御時ヨリ自レ丑寅ノ方ニ陶ニ七十二丈ノ雖モ陶ト蓬萊島ノ新山ハ不レ揺ル。自レ中天竺ニ渡レ五本木ニ今ノ楠ナリ頭ハ十二所ニ權現ト云云。

〔第五〕御社壇殿作之事

凡ソ本宮ノ者ハ以ニ本地ニ為レ本ト也。於ニ指南抄ニ者ハ靈神降臨ノ〔六才〕後千代包ノ初ニ折リ靈樹ヲ結シ神籬ト。其ノ後ニ崇神天皇ノ瑩ニ神ノ祠ヲ於ニ千葉ニ傳ニ洪基ニ於ニ百王ニ其ノ後ニ智証大師ノ御參詣ノ之時ニ靈鳥ノ銜ニ指シ函ヲ飛シ來ル。大師則披閱シ「ヒラキミル」〔左傍〕以テ為レ奇異ト。宝殿廻廊ハ百八間ニ十二門ニ以テ悉ク有リ謂フ者ナリ也。先証誠一所ハ弥陀一仏ノ所ハ即チ兩部ノ大日ノ也。止觀ノ之ハ兩輪五体王子ハ表シ五部ノ之ハ深義一四所明神ノ者ハ示ス四重ノ之ハ円ノ檀ヲ。復夫御殿ハ十二所ノ者ハ標シ二十二因縁一十二律侶ノ十ノ二月十二時ニ對シ二十二支ヲ。神座ハ十二間ノ者ハ相ニ當シ胎ノ藏ハ十三大院ニ或ハ示ス二十三仏ヲ。証誠殿ハ結シ早玉ノ若宮ノ禪ノ〔六ウ〕師聖兒小守ノ此ハ八所ニ配シ胎ノ八葉ト。一ハ十万ノ勸ヲ請シ十ノ五所ハ飛行ノ夜叉米持ノ金剛童子ノ五所ニ當ル金ノ五智ト。別ニ以テ兩所ニ故ニ配シ兩部ノ者ナリ也。廻廊ハ有ニ二十二門ニ現在ノ十門ニ也。樓門ハ東ノ之ハ脇ニ有リ不レ打ル長押一二門ニ以テ之ハ擬シ二門ノ号ニ十二門ト敷キ為レ引ニ入ル十二因縁ノ流ル衆生ノ參詣ノ之時ニ入リ自レ愛樂門ニ者ハ証誠殿ノ前門ナリ。

表ス上求ノ菩提ノ之ハ義ヲ。菩ノ提ノ之ハ大欲ノ者ハ是レ愛樂ノ至極ノ故ニ下向ノ之時ニ出ル自レ油戸ノ門ノ者ハ示シ下化ノ衆生ノ之ハ義ヲ。是レ隨染ノ業幻ノ之ハ義ヲ故ナリ也。次ニ長床十三間者ハ胎藏十三大院也。廻廊ハ百八間ノ者ハ〔七才〕表シ百八煩惱ト。即チ是レ濟度ノ方便ノ也。次ニ御節ノ之時ニ雖モ開ク十二所ノ御戸ヲ不レ開ク滿山ノ護法ノ御戸ハ。十二所ノ者ハ現在ノ果成ノ之ハ如キ來ル故ナリ。表シ開敷ノ蓮華ノ之ハ姿ヲ。彌勒尊ノ依テ為レ二當ニ來導師ノ之位ニ居ス等ノ覺ク因ニ滿ニ故ニ表シ未成ノ相ヲ示シ未敷ノ蓮ノ華ノ之ハ故ニ不レ開ク滿山ノ御戸一也。

〔第六〕兩所御殿除中間之事

奉レ号シ二神宮間ト。此ハ是レ諸神集會ノ之道場ナリ也。是レ則チ自性ノ受用ノ自レ眷屬等自レ受法ノ樂ノ自性ノ界宮ノ之ハ台ト也。神ノ變加持ノ之位所故ナリ。二号ノ二神宮間ト矣。〔七ウ〕○次ニ札殿ノ表示ノ之事ノ面ハ十二間ノ者ハ表シ十三大院ノ傍ニ九間ノ者ハ擬シ九會ノ曼荼羅ト也。○地主ノ權現ノ謂フ者ハ天竺ノ日域ノ根本ノ大廟ノ總ノ席ト悉ク勸請ノ故ニ依テ二国ノ司ト稱シ地主ノ權現ト畢ス。

〔第七〕熊野称号之事

神武天皇ノ始ニ御臨幸ノ山深谷ノ遠ニ松柏ノ「カヤ」〔左傍〕茂合ノ徑路ノ失フ。愛ニ大熊ノ來レ而レ示シ路ヲ先立テ行ク猛獸ノ而レ力ヲ強能ク拔ク木ノ動カス。石ノ也。一切ノ經ノ音義第二云ク熊ノ胡弓ノ反シ。熊ノ如キ豕ノ山ニ居ス冬ノ蟄ル「コモル」〔左傍〕。其ノ掌ハ似テ人ノ掌ト根本ノ能ク遊ス三密ノ三諦ノ三身ノ三ノ寶ト也。權美ノ不レ唯レ有一ノ乘ト也。過去ノ現在ノ未來ノ三世ノ不レ退ス尊ト也。一心ノ三觀ノ一念ノ三千ト。○日本ノ第一ノ大靈ノ驗ノ所ノ根本ノ熊野ノ三所ノ權現ト「十六ノ字也」此ハ勸額ノ上ノ八字ノ歎ク靈ノ驗ノ無レ雙ト。

之徳^ノ下^ハ八字^ハ 顯^ニ神明^ノ / 得名^ヲ。 蒙^ニ二十六玄門^ノ之秘奧^一標^ニ十六大菩薩^ノ次位^ヲ示^ス / 十六分^ノ之仏性^ヲ云云。 ○名^ニ大日本國^ノ事。 本朝開^カ闢^ス之始^ニ金色^ノ文字^ヲ浮^ク滄溟^ノ之上^ニ生^ス國土^ノ故^ニ大日本^ノ國^ト云。 法華第一方便品^ノ說^ク惠日大聖^ノ尊久乃說^ク是^レ (八ウ) 法^ト 大日經^ノ 下^ニ云 惠日照世間^ノ消除^ス生死雲^ト云云。 / 十六字靈額^ノ掛^ク鳥居^ノ中心^ニ觀^テ迷故^ノ三界城悟^ル故^ノ / 方空^ノ内^ニ心身無^ク苦^シ外^ニ仁義礼智信^ト通入^ス也。 / ○鳥居形心阿^ノ門 清淨潔齋^ノ之儀^{ナリ}也。 / 大日經^ニ曰^ク有情非情阿^ノ字第一^ノ命矣。 阿^ハ是^レ一切衆^ノ生^ノ命根^{ナリ}也。 諸仏衆生^ノ心法^{ナリ}也。 智証大師^ノ云^ク阿^ハ不生^ノ微妙^ノ體^ニ即是衆生^ノ内心法^ト本來清淨^ニ如^シ蓮華^ノ矣。 神^ノ明諸仏^ノ之意密^ノ衆生^ノ之心意^也 仍^ヨ神明門^ノ前^ニ立^ル鳥^ノ居^ノ神明^ノ心識^也。 成^ル空理正覺^ノ故^ニ雖^レ開^ク十地^ノ位^ヲ不^レ論^ス (九才) 高下淺深^ノ 孔字門^ニ入^ル無^心境界^也。 空^{ナリ}也。 / ○聖皇明驗^ノ人出生^ノ時^ニ鳳凰^ノ來^リ舞^フ故^ニ漢朝倭國^ノ禁^ル裏^ノ南面^ノ摠^テ或^ハ五鳳樓^ノ或^ハ朱雀門^ノ名^ケ金銅^ノ造^ル鳳^ノ像^一。 / 案^ニ門^ノ棟^ニ或^ハ神輿^ノ鳳^ノ置^キ皆^レ此^ノ謂^フ也。 /

第八 十二所權現御本地之事

本宮証誠殿^法體 本地阿弥陀如来^{婆羅門僧正} / 顯^レ之^也 /
 那智^ノ「女體^{結尊} / 伊弉冉尊」 本地千手^{弘法大師} / 顯^レ之^也 /
 新宮^ノ「俗體号^{早玉尊} / 伊弉諾尊」 本地薬師^{傳教大師} / 顯^レ之^也 /
 已上三所權現^{号^{結^{早玉}二社} / 於^兩所權現^ニ (九ウ) 若宮女^一王子^ノ「女體号^{若殿}依^為二^所之一王^ノ / 子天照太神^ノ御身^ニ云深秘^也」本地十一面^{智証大師} / 顯^レ之^也 /}

禪師宮^法體 本地^{地蔵菩薩}「源信僧都^{顯^レ之^也} /
 聖^ノ宮^法體 本地^{龍樹菩薩}「千觀内供^{顯^レ之^也} /
 児宮^{童男}形 本地^{如意輪}「静^觀僧正^{顯^レ之^也} /
 子守宮^女體 本地^{聖觀音}「同僧正^{顯^レ之^也} /
 已上五體王子 /

一^ノ万^ノ「俗^ノ體」 本地^{文殊}「慈覺大師^{顯^レ之^也} /
 十^ノ万^ノ「俗^ノ體」 本地^{普賢}「同大師^{顯^レ之^也} /
 勸^請十五^ノ所^ノ「俗^ノ體雅^ノ顯^レ / 長者^ノ是^レ也」本地^{釈迦}「婆羅門僧正^{顯^レ之^也} /
 飛^行夜^叉「夜^叉 / 形」 本地^{不動}「智証大師^{顯^レ之^也} /
 米^持金^剛「夜^叉 / 形」 本地^{毘沙門}「同大師^{顯^レ之^也} /

已上四所^{神明}「眷^屬神^也」 /
 滿^山護^法「新^ノ宮」 本地^{弥勒}「智証大師^{顯^レ之^也} /
 礼^殿執^金剛^ノ「本^ノ宮」 本地^{八文字殊}「智証大師^{顯^レ之^也} /
 湯^ノ峰^ノ「本^ノ宮」虚空^蔵「婆羅門^ノ顯^レ之^也」○神^蔵「新^ノ宮」愛^染明^王「傳^教大師^ノ顯^レ之^也」 /

阿^須賀^ノ「新^ノ宮」大^威德^明王<sup>智証大^ノ師^{顯^レ之^也} / ○飛^瀧權^現「那^ノ智^ノ千^手裸^形上^人顯^レ之^也」 /
 凡^ノ本^ノ宮^{本^ニ本^地}。 新^ノ宮^{宗^ニ垂^跡}。 那^ノ智^{本^ノ跡^ニ不^レ二^{ナリ}}也^{云云}。 /
 又^云熊^野三^山。 者^レ是^レ法^報応^{三^身}也^矣。 (十ウ) 或^ハ日^本第^一大^靈驗^所根^本熊^野三^所大^權現^ニ云云。 / 凡^ノ漢^家祖^廟大^廟本^朝天^神地^神未^レ有^レ尊^レ自^{ヨリ}熊^野。 / 權^現之^{垂^跡}無^レ先^レ自^{ヨリ}熊^野之^靈堀^矣云云。 倩^案之^熊野^ノ之^權現^者或^ハ本^朝宗^廟或^ハ西^天大^祖。 又^ハ伊^弉諾^ノ伊^弉冉^天照^太神^御同^體。 皆^ナ上^ニ記^因茲^{得^ル}日^本第^一佳^名一^者也。</sup>

第九 本宮御在所之事

緣起 文云神武天皇五十七年戊午歲十二月晦夜半摩竭提國正覺山菩提樹下金剛壇飛來。二(十一才)河之間[尼連/禪河]音無/齋河今新山是也云云。玄奘三藏西域記/第八云摩竭陀國前正覺山西南行十四五里至/菩提樹。周垣壘輒崇峻險固。東西長南北狹周五/百步正門東關對尼連禪河。菩提樹垣正中/有金剛座。昔賢劫初与大地俱拋三千大千世界之中/下極金輪上侵地際。金剛所成周百步賢劫千/仏座之。而入金剛定。故曰金剛座上。菩提樹者則/畢鉢羅樹也。仏座其下一成。正覺。因謂之菩提樹焉。凡本地内証境界入法法尔。雖離。造作垂(十一ウ)跡外心之行化依正宛然。非無。因緣。因茲広披三山之緣起。委考諸神靈心一本宮御在所緣起彼/西域記者玄奘三藏渡天之時所製。此熊野緣起/文章博士藤原長光所造也。然而向文起盡秋毫/不(戈十心)尤不可疑。○証誠大菩薩家津御誓曰。哀二六/十餘州一切衆生。為下除二貧窮一致。中富貴。下。无漏郡影/向備里道遠山高溪深。河多。為メナリ。令懺悔衆生業障/也。登嶺業障。汗散下。谷罪垢洗。水消。唯殘二淨心。令詣我許。現世安穩。後生善処。必託。安養九品(二十二才)之蓮台。此事若偽。者不列。二熊野三所權現隨一之内。永削。証誠大菩薩家津御子之号。文○西御前/結宮誓曰。弘二天魔王鎮。外道。縱仏法滅。人就天魔王。雖。如。阿修羅心。勸。請。我參詣。我許衆生。我上一万眷/屬下十万眷屬。以為二伴類。彼大力。夜叉童子。弘二天魔王鎮。外道。現世安穩。結三。

衆生髮與我髮一結。三衆生手/與我手。永種菩提。因一竟結。涅槃果而已。此事偽不/列。熊野三所權現西宮千手。文○中御前藥師/早玉宮誓曰。為メナリ。一切衆生除病延命也。病起自(十二ウ)業障。欲。償。二病患一可。懺悔業障。祈後生善処。無不。成/就。故參詣。我許衆生我左手。早玉之藥師。水灑我/後流水密河。沐浴。其密河水者。病患貧窮業障。浮/汗淨心計。殘白妙。做。於三所御前。指當。額念。我衆/生。之思念所求悉地無不。於成就。現世安穩後生。等。阿耨多羅三藐三菩提。此者不列。熊野三所權現藥師早玉者。也。早者速疾。悉地立。滿足玉。者宝珠充滿之意。矣。○神武天皇御代々。聖主/有御臨幸也。中。仁王六十五代。帝華山院。被成。發。二十才心。然熊野權現仏眼上人。現給。花山院。御師範權/化人御尋。時河内。国石川郡之内磯長。里上宮太/子。御廟所參詣。任。示現。通夜万人。中法師御眼。金/色光指。則勅使見給。奏聞。頓而昇殿。給。仏眼上人。宣言。下給。御師匠。定御法体。入覺奉。申。爰。德道上。人於。閻魔王宮。二十王讚歎給。娑婆世界。衆生成仏。直道無。勝。修行。靈地。三十三所。觀音巡礼。所以者。何。第一番那智山參詣。始也。○入覺法王第三。度順礼給也。○後白河。法王熊野臨幸。三十三(十三ウ)度也。修驗。有。御志。瀧雲房。奉。申。那智千日御瀧籠。種種御行体。希有次第也。○熊野三山檢校。職。始。白河院御臨幸。御先達依。彼。賞。增。增。前大僧。正時。被。始。置。此。職。云云。白河熊野御勸請。為御願寺。供養。賞。故。被。始。補。云云。三井長史。護持。牛車。座主。四天王寺別當。延曆寺座主。三山檢校。法務大僧正(号一乘寺) 聖護院。

第十 大峯八大金剛童子本迹名体事

夫尋大峯濫觴宣化天皇即位三年戊午歲第九夜半雲上
有數万声一國土動如大地震空告曰大(十四才)菩提
爰來云云此詞万人怪玉臣不悟然處諸仏現之
變通天照太神曰菩提何物哉願示之給矣
天照太神對諸神吾治天下後經數千萬歲日月雖
久佛法未來方今末代衆生薄故天竺仏生國巽
角金剛堀坤方乘彩靈而涉巨海一緣土留大峯
之時付來顯金剛童子也矣八大金剛童子者天竺靈鷲
山八方有之守護神也隨來又大峯守護雖為末世
賞罰嚴重明白也

第一除魔童子 本地釈迦如来

右手持利劍左手寶珠○良弁
僧正頭之吹越(十四ウ)

第二護世童子 本地師子音仏

右手持開敷蓮華左手作金剛拳

按腰○勤操僧正頭之多和

第三慈悲童子 本地雲自在仏

右手持利劍左手持三鈷杵給

也○真濟僧正頭之水飲

第四惡除童子 本地阿弥陀如来

右手持針左手金剛拳按腰○弘

法大師頭之玉置

第五劍光童子 本地帝相仏

相双二右手一捧二寶珠○南都禅

洞頭之篠

第六香精童子 本地梅檀香仏

左右手相双一捧二鉢○智証大

師頭之深山

第七檢増童子 本地阿闍仏

右手持三寶劍左手持三寶索○聖宝

頭之禅師

第八虚空童子本地虚空住仏

右手持香炉左手持三寶索○禅
洞頭之笙窟

峯中七十五摩所金剛童子守護神也

第十一 行者五大次第之事(十五才)

役行者著角帽子用九条著蓑策錫杖持獨鈷数
珠履鉄履○義覺著頭襟并不動袈裟持劍
著三寶冠袈裟同掛笈○義真著三寶冠持数珠袈裟
同○寿元著角帽子袈裟同持索

第十二 蔵王権現本地垂迹之事

凡尋蔵王因位於印度波羅奈国王卒濁大王ナリト云
云於垂迹壇特山飛來時同降臨和国神武天皇御
宇熊野権現隨來顯金剛蔵王雖守護金峯山不
知御体一處於山上役優婆塞摧肝胆致御祈請(十
五ウ)処現柔和忍辱形給時為今御体難守護当山
奉追返時則現大忿怒身涌出今山上蔵王也青
黒三目頂上三鈷冠戴右手同杵取打虚空
左手結劍印安腰火光身變忽然顯其形左足
柱立寶石上立右足踏虚空誦文云昔在鷲峯名
牟尼今於海中金峯山為度衆生現蔵王今世後世能引導
文○中釈迦東千手西弥勒三身三世靈仏也過去
未來現在之三尊云云子守勝手金精大明神三十八所
守護靈鷲山四方角護法也子守坤護法本地地
蔵勝手異護法本地毘沙門文殊(十六才)金精大明神
良護法本地大日如来三十八所八大明王乾護法本地

／十一面。／

第十三 自下山至山上入堂次第事

發心門「金鳥居」(右傍)。藏王堂。天満。佐挑「勝手之御子」(右傍)。勝手「号」下宮「(右傍)」。八王子。上宮「子守三十八所」(右傍)。／牛頭。金精大明神「二鳥居号」修行門「(右傍)」。宝塔。一人宿「号」薊嶽「(右傍)」。二人宿「号」今祇園「(右傍)」。天井嶽。三人宿「号」寺及「(右傍)」。／四人宿「鞍懸」(右傍)。猪鼻。鐘懸。等覺門。子守。白山。／三十八所「於是」上頭襟「藏王」堂前懸「笈」入峯。山上藏王堂。妙覺門。／

第十四 峯中灌頂私記

吾、今、將、為、二、貴、賤、同、行、授、當、道、灌、頂、夫、大、峯、者、積、尊、常、在、說、法、之、靈、地、大、日、覺、王、三、世、常、住、之、勝、域、也。 (十六ウ) 山川草木、自、頭、中、道、実、相、之、深、理、石、巖、碧、洞、ミ、ト、リ、ノ、ホ、ラ (左傍)、親、示、四、種、曼、茶、之、妙、体、誠、一、乘、三、密、之、淨、刹、也。臨、彼、幽、邃、炎、熱、之、夏、日、踏、玄、冬、之、氷、入、此、巖、岨、素、雪、之、寒、朝、見、四、季、之、花、於、穢、土、為、淨、土、於、人、界、為、二、仏、界、誰、此、山、不、謂、華、藏、報、土、依、之、非、宿、善、者、不、可、入、此、峯、非、曩「ムカシ」(左傍)縁、者、不、可、攀、此、地、爰、入、峯、諸、同、行、依、往、昔、修、因、之、感、果、令、入、最、上、秘、密、之、靈、場、忽、欲、受、修、驗、灌、頂、密、法、可、喜、々々、而、先、授、三、摩、耶、戒、之、妙、相、初、三、摩、耶、戒、云、(十七才) 欲、受、一、切、諸、仏、菩、薩、灌、頂、成、仏、種、性、不、斷、者、當、發、心、菩、提、心、受、清、淨、戒、諸、仏、歎、喜、所、不、受、一、仏、戒、者、生、々、不、見、三、宝、如、木、石、無、異、雖、對、十、方、一、切、

諸、不、令、成、證、明、然、處、真、僧、証、悟、受、灌、頂、職、位、授、清、淨、戒、者、要、三、世、諸、仏、哀、愍、納、受、滅、罪、生、善、悉、地、円、滿、無、疑、今、能、至、心、請、否、弟、子、甲、乙、等、奉、請、十、方、周、遍、法、界、微、塵、刹、土、帝、網、重、々、三、界、諸、仏、尊、法、諸、大、菩、薩、摩、訶、薩、天、龍、八、部、等、唯、願、當、峯、護、法、諸、天、神、等、降、臨、道、場、証、智、護、念、給、(十七ウ) 歸、依、仏、竟、歸、依、法、竟、歸、依、僧、竟、衆、生、無、辺、誓、願、度、福、智、無、辺、誓、願、集、法、門、無、辺、誓、願、學、如、來、無、辺、誓、願、事、無、上、菩、提、誓、願、成、仏、子、等、從、生、已、來、不、殺、父、不、殺、母、不、殺、不、出、二、身、血、不、殺、阿、羅、漢、不、殺、和、尚、不、殺、阿、闍、黎、不、破、和、合、僧、汝、等、若、犯、如、上、七、逆、罪、者、須、(ハシ) 左、傍、對、衆、發、露、懺、悔、不、得、覆、藏、既、依、一、仏、教、懺、悔、者、必、得、二、重、罪、消、滅、得、清、淨、身、若、不、犯、者、但、自、答、無、無、先、德、明、匠、苦、行、以、是、為、專、要、然、レ、今、非、器、同、行、等、動、(十八才) 不、全、法、式、族、有、之、云、冥、顯、可、恐、云、云、木、食、草、衣、仏、弟、子、通、誠、也、釈、迦、如、來、難、行、之、昔、食、鳥、表、手、一、合、六、年、苦、行、給、今、此、先、蹤、也、同、行、殊、致、精、進、全、二、式、相、速、可、至、成、仏、果、順、抖、擻、者、從、因、向、果、次、第、而、胎、金、修、行、故、号、順、峯、於、日、數、者、百、个、日、為、際、限、逆、修、行、者、從、果、向、因、行、金、胎、運、足、故、称、逆、峯、以、二、七、五、日、為、二、其、限、日、可、陵、峻、路、勤、行、更、不、可、有、自、由、懈、怠、之、儀、專、修、行、也、就、中、望、白、雲、高、嶮、之、別、境、者、宛、如、下、棹、孤、舟、浮、大、海、上、當、此、時、憑、誰、力、乎、爰、曩、祖、行、(十八ウ) 者、發、大、慈、大、悲、之、誓、願、開、當、道、抖、擻、刻、哀、後、昆、之、我等、呪、縛、二、鬼、令、居、三、重、其、子、孫、于、今、相、繼、峯、中、為、二、博、士、或、順、逆、先、達、使、導、前、仏、之、巖、洞、或、隨、逐、水、木、之、行、人、示、古、仙、之、秘、峯、或、不、老、不、死

妙菓珍果／等見^{アラハシテ}。法器^ヲ施^ス之。○役^ノ優婆塞常^ニ曰^{ハク}、我不^ハ愛^シ身命^ヲ、從^テ來捨身^ヲ、求菩提^ヲ之^レ苦行^ヲ、何有^レ所^レ痛哉^ト。併^ニ末世^ノ行人^ノ下根^ノ故^ニ於^テ巖石^ニ亡^レ命^ヲ輩^ヲ繁多^ニ而^モ近來^ニ異^{ナル}方便^ヲ廻^レ為^レ扶^ニ非器^ノ新客^ヲ、加^ヘ宥免^ヲ、令^レ去^レ嶮難^ヲ。先^ニ達^ニ同^ノ之^レ上^ハ、不^レ能^ニ是^レ非^ニ。尤^モ可^レ守^ル本式^者也。○当道灌頂^ノ深秘^ト（十九才）者、高祖^ノ役君^ノ優婆塞^{、依^ニ生^々々^ノ修行^ノ願力^ニ、終^ニ示^シ當^レ峯^ノ深密^ノ法^ヲ、而^モ今^マ愚鈍^{下根^ノ之輩^ヲ、訪^ニ先^聖先^賢跡^ヲ、恐^レ多^ク怖^多。汝等^{不^レ悟^ニ、至^ル灌頂^ノ位^ニ、所以^者何^{、峯中}難^行苦^行凌^レ雖^レ不^レ替^レ生^ヲ改^メ性^ヲ、十^界修行^ノ願力^ニ依^テ今^マ此^ノ靈地^ノ至^ニ仏^ノ事^ノ誠^ヲ以^テ難^有者^ヲ哉。○深山^ノ者^{、八葉}中^台也。○已^ニ入^レ曼^茶羅^ノ中^院、証^ニ即^身即^仏覺^位。故^ニ深山^ノ碑^文云^ク、不^レ論^迷悟^者、入^レ於^遍知^院、不^断煩^惱者^{、超^レ菩^薩十^地。凡^聖一如^ノ、法^理親^{在^ニ吾^道之^秘決^ニ、誠^ト為^レ希^有中^ノ希^有也。仰^生信^敬、慎^{可^レ疑^精進^ヲ、努^々勿^レ蔑^{如^スト}矣。〔十九ウ〕}或^{授^ルコト}一^印一^明、可^レ依^ル同^行之^器。先^ノ達^又有^二用^意。可^レ口^決也。可^レ秘^々々^々。修^験練^行之^式相^梗概^{如^シス}。凡^ツ費^ニ西^天梵^音直^語、開^闢金^胎兩^部一^乘三^密於^此峯^ノ、不^レ借^レ震^旦三^藏翻^訳、不^レ依^ニ本^朝大^師將^来惟^レ是^レ仏^界神^道之^勝地。則^ニ是^レ金^剛不^壞寶^界也。權^現託^宣曰^ク、我^{哀^ニ難^化衆^ノ生^ノ機^根、令^レ勵^ニ難^行苦^行之^功、將^ニ成^ニ即^身即^仏之^良因^ヲ。貴^キ哉^{、凡^慮勿^レ加^{フル}コト}是非^{。爰^ニ一^見無^智之^族、不^レ弁^ニ自^ノ損^損佗^ノ之^謂、對^ニ佗^宗之^僧侶^員外^之在^俗、莫^レ說^ニ峯^ノ中^ノ之^行相^ヲ。若^{説^レ之}者^{、仏^法讐^敵アタカキ}（左^傍）、外^道邪^見之^伴党^也。〔二十才〕汝^頭破^作七^分。新^客深^{可^レ慎}可^レ恐^{。今^{深山}一^夜登^壇靈^鐘一^聲、留^ニ耳^ノ底^慎々^{。冀^高祖^役君^優婆^塞、依^ニ生^々々^ノ願^力、成^ニ三^藐三}}}}}}}}}

菩提^ノ之^求願^ヲ矣。若^{違^ハ背^ノ之}輩^者、熊^野三^山胎^藏權^現、吉^野三^所金^剛藏^王、乃^至、各^々部^類眷^屬、別^レ當^レ峯^諸宿^八大^童子、廻^ニ正^見正^知、毗^播冥^冥心^之靈^瑞而已^{。為^ニ修^験中^ノ洛^東沙^門大^先達^千勝^院法^印鎮^榮、以^ニ正^本令^改板^之者^{ナリ}也。}

修験指南鈔[畢]

元禄六[癸酉]曆六月吉祥日

板行

落陽三條通書肆
中野六右衛門